

## 1. 調書(様式2)

### 公共事業事前評価調書

事業概要	事業名	【公園－2】 (仮称)羽根沢公園整備事業
	場所 (所在地)	横浜市戸塚区名瀬町 589 番 2 ほか
	事業目的	計画地は「横浜市水と緑の基本計画」において「緑の七大拠点」(大池・今井・名瀬地区)に位置付けられており、戸塚区に広がる緑の拠点を保全し、レクリエーションの場として公園整備を行います。また、計画地の西側に整備予定の「(仮称)名瀬・上矢部市民の森」との連続性があることから、地域の人々が集う「まちと森の交流拠点」として整備するものです。
	事業内容	<b>■事業内容</b> ・公園種別：近隣公園 ・計画面積：約 2.6 ha ・施設内容：広場、体験学習施設、休憩所、便所、遊具、植栽  <b>■管理運営計画</b> ・南部公園緑地事務所:公園の維持管理、利活用事業の実施、体験学習施設の管理 ・公園愛護会:巡回点検、清掃 ・戸塚区:利活用事業への参画
	事業スケジュール	・平成 28 年度：都市計画決定、事業認可、基本設計 ・平成 29 年度～：用地取得、実施設計、施設整備工事 ・平成 34 年度：供用開始
	総事業費	約 24 億円 財源内訳 国費:約9億円、市費:約 15 億円
	事業の必要性	<b>■必要性</b> ・横浜市では、1小学校区あたり近隣公園1箇所を目標に公園整備を進めています。名瀬小学校区には近隣公園がなく、当該公園はこの地域に不足する近隣公園を補うのに必要なものです。 ・計画地は「横浜市水と緑の基本計画」に位置付けられた、地域のランドマークとなる貴重な緑のオープンスペースであり、(仮称)羽根沢公園は公園予定地の西側に隣接する(仮称)名瀬・上矢部市民の森への玄関口として、地域の人々が集う「まちと森の交流拠点」となります。

	<p><b>■横浜市水と緑の基本計画（H19.3）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地は、「緑の七大拠点」の中で「大池・今井・名瀬地区」に含まれており、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区に広がる緑の拠点を保全し、レクリエーションの場として拡充を図ることとしています。</li> </ul> <p><b>■横浜市都市計画マスタープラン・戸塚区プラン（H13.4）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市づくりの骨格の一つとして「緑・水空間」が掲げられ、計画対象地は品濃、舞岡、深谷・俣野、小雀とともに、「名瀬の森」として「戸塚の5つの森」に位置付けられ、「川と丘、風土をいかした戸塚らしさのあるまち」づくりをめざしています。</li> </ul> <p><b>■名瀬地区まちづくりプラン（地区プラン）（H12.5）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然と人が共生するまち、誰もが安心して暮らせるまち」を将来像に掲げ、まちづくり方針の1つである緑づくりでは、「名瀬の緑を守り、創り、育てる」をテーマに、名瀬の特徴である谷戸景観とそこで生息する多様な動植物との共生を守るため、地域の協力を得ながら地域活動の中で保全・育成することとしています。</li> </ul>															
<p>事業の効果 (費用便益分析等)</p>	<p><b>■定性的事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該公園の西側に整備する(仮称)名瀬・上矢部市民の森への玄関口であり、計画地全体を象徴する風景と体験の場となります。</li> <li>・地域の潤いのある景観を担い、緑のランドマークとして機能する空間となります。</li> <li>・緑に包まれた空間と優れた眺望を活かした、遊び、散策、休息等の多様なレクリエーションを提供します。</li> <li>・来訪者が、共に地域の歴史や自然環境を学び、体験し、交流する活動の拠点となります。</li> </ul> <p><b>■費用便益分析</b></p> <table border="1" data-bbox="507 1608 1428 1848"> <tr> <td>割引率</td> <td>4%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>6,267 百万円</td> <td>10,198 百万円</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>2,131 百万円</td> <td>2,004 百万円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>2.94</td> <td>5.09</td> </tr> <tr> <td>感度分析〔便益-10%〕</td> <td>2.65</td> <td>4.58</td> </tr> </table> <p><b>■コスト削減の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地は現在、民間企業が経営中のゴルフコースであり、既存地形及び設備、植栽について、利用可能なものは活用します。</li> </ul>	割引率	4%	2%	総便益(B)	6,267 百万円	10,198 百万円	総費用(C)	2,131 百万円	2,004 百万円	費用便益比(B/C)	2.94	5.09	感度分析〔便益-10%〕	2.65	4.58
割引率	4%	2%														
総便益(B)	6,267 百万円	10,198 百万円														
総費用(C)	2,131 百万円	2,004 百万円														
費用便益比(B/C)	2.94	5.09														
感度分析〔便益-10%〕	2.65	4.58														

環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地及びその周辺の自然環境、社会文化環境等についての情報を収集し、環境資源等の現況把握を行います。</li> <li>・敷地の緑化を図り、生物の生息環境の確保に努めます。緑化に際しては、郷土種中心の多様な植物の植栽や、表土の保全・活用など、生物多様性の保全と創造に努めます。</li> </ul>
地域の状況等	<p>■用地の取得状況 平成 29 年度以降用地取得見込です。</p> <p>■住民説明会の開催 平成 27 年度に地域ニーズ把握のための地元意向の聴取を実施します。</p>
事業手法	公共発注方式
その他	特になし
添付資料	(有)・無
担当部署	環境創造局 みどりアップ推進部 緑地保全推進課 (Tel 045-671-3534)



### 3. 航空写真

- ・ 計画地は、平坦な市街地に接する丘陵の先端部にあり、南東向きのなだらかな斜面と、その間に散在する平地からなっています。
- ・ 計画地の西側に隣接して、(仮称)名瀬・上矢部市民の森契約地を含む広大な樹林地が尾根沿いに続いています。



図 2 航空写真



## 上位計画

### ■ 横浜市水と緑の基本計画 (H19.3)

- ・計画地は、「緑の七大拠点」の中で「大池・今井・名瀬地区」に含まれており、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区に広がる緑の拠点を保全し、レクリエーションの場として拡充を図ることとしています。
- ・市民の森の指定や公園整備により緑を保全します。

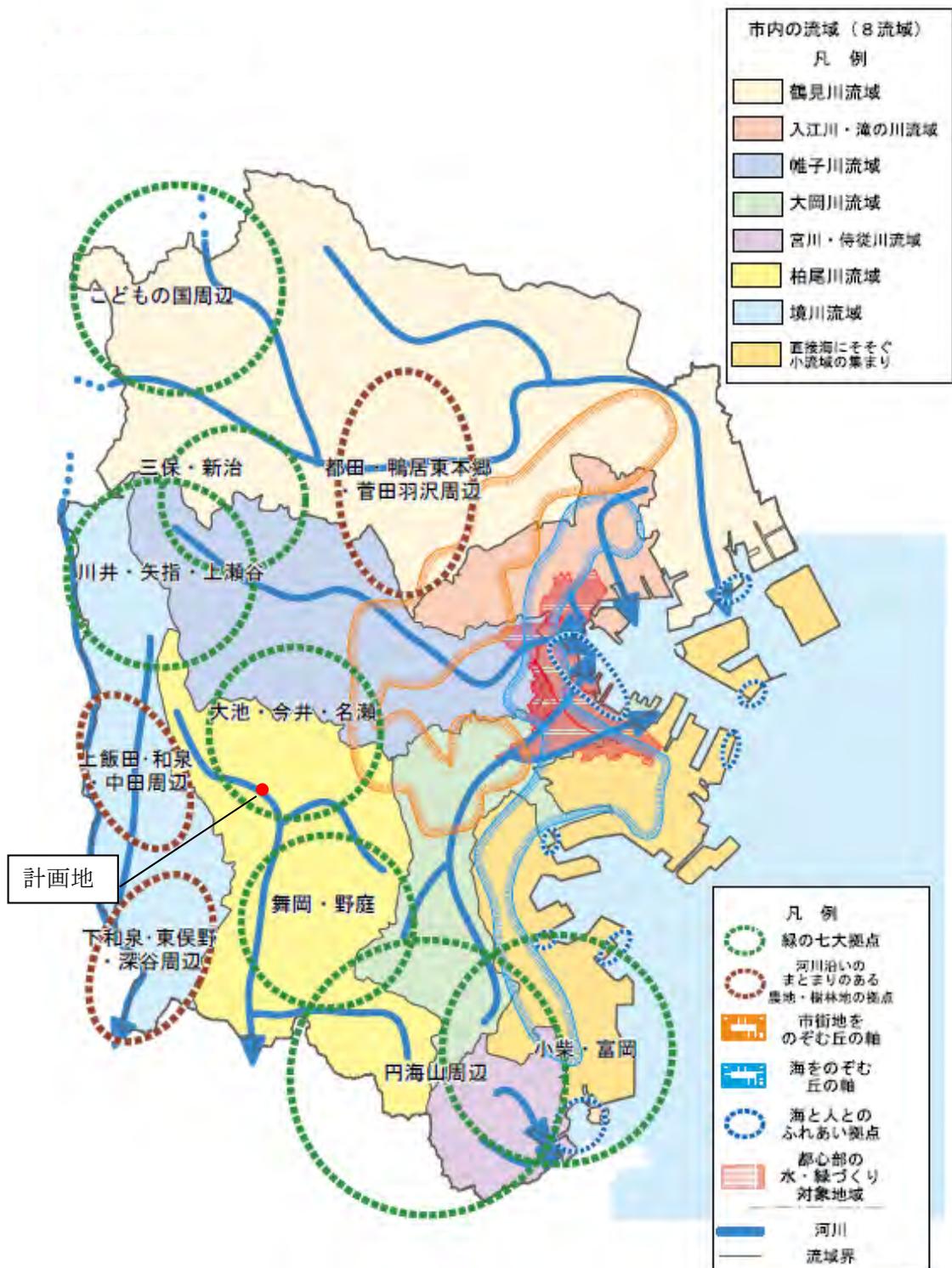


図 4 推進計画図

■ 横浜市都市計画マスタープラン・戸塚区プラン (H13.4)

- ・都市づくりの骨格の一つとして「緑・水空間」が掲げられ、計画対象地は品濃、舞岡、深谷・俣野、小雀とともに、「名瀬の森」として「戸塚の5つの森」に位置付けられ、「川と丘、風土をいかした戸塚らしさのあるまち」づくりをめざしています。
- ・また、「緑のオープンスペース豊かなまちづくり」の方針として、まとまりある緑地の保全、斜面緑地の保全、特色ある公園の整備等を行うこととしています。

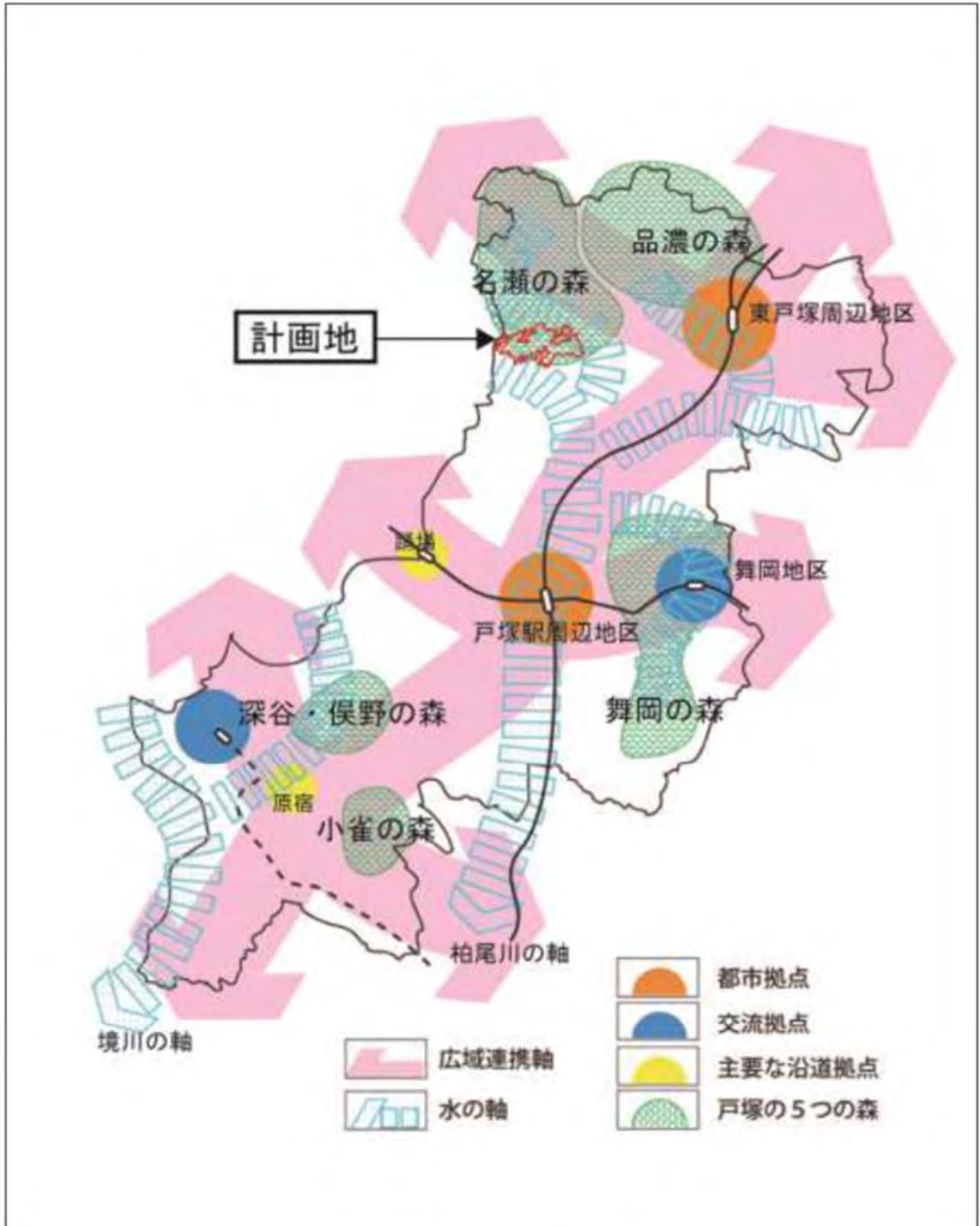


図 5 都市構造図

## 5. 事業費

・総額：約 24 億円

表 1 年度別事業費

		用地費	施設費	合計	累計	備考
H27	2015					
H28	2016					
H29	2017	609.0		609.0	609.0	
H30	2018	609.0		609.0	1,218.0	
H31	2019	609.0	208.6	817.6	2,035.6	
H32	2020		208.6	208.6	2,244.2	
H33	2021		208.6	208.6	2,452.8	
H34	2022					全体供用 (2.6ha)
計		1,827.0	625.8	2,452.8		

単位：百万円

既事業分事業費	0	0	0
残事業分事業費	1,827.0	625.8	2,452.8
事業進捗率	0.0%	0.0%	0.0%

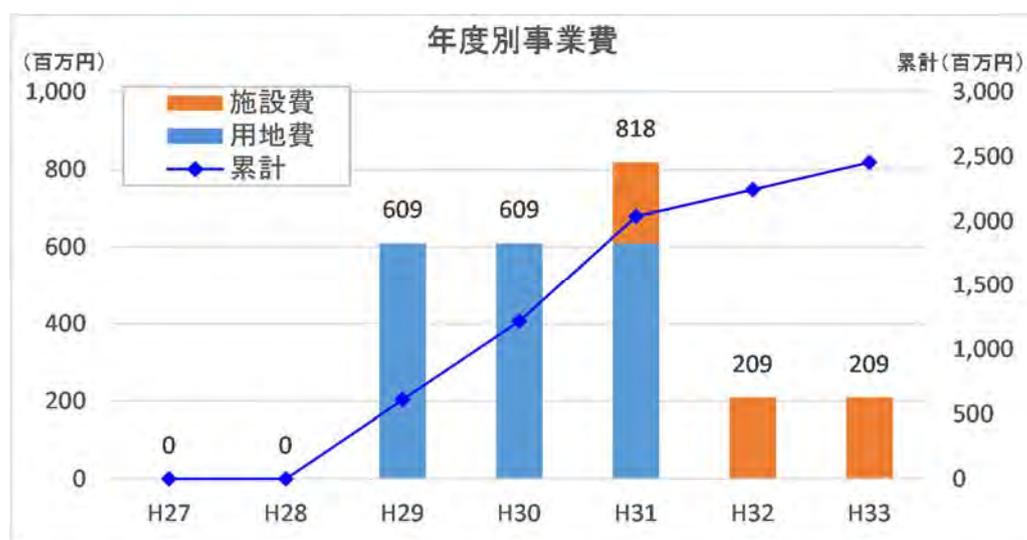


図 6 年度別事業費

6. 現地の状況写真現地の状況写真



図 7 現地の状況写真

## 7. 費用便益分析結果

### (1) 費用便益分析結果

<算定条件>

- ・事業期間：平成 29（2017）年度～平成 33（2021）年度
- ・評価期間：平成 34（2022）年度～平成 83（2071）年度（供用開始から 50 年間）
- ・評価時点：平成 27（2015）年度
- ・割引率：4% 改訂第 1 版 小規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省）に基づき算定  
2% 横浜市再評価審査資料作成要領に基づき算定
- ・感度分析：便益の-10%

表 2 便益と費用の内訳（基本ケース：割引率 4%）

総便益（百万円）		総費用（百万円）	
利用価値	事業全体	費用	事業全体
		用地費機会費用	1,430
		施設費	515
		維持管理費	187
合計	6,267	合計	2,131

表 3 各ケースの費用便益分析結果

事業全体	割引率 4%	割引率 2%
総便益（百万円）	6,267	10,198
総費用（百万円）	2,131	2,004
費用便益比（B/C）	2.94	5.09
感度分析 費用便益比（B/C）	2.65	4.58

※  ：基本ケース

※感度分析：便益-10%

マニュアルによる費用便益分析を検討した結果、割引率 4%、2%、感度分析の全てのケースにおいて、費用便益比は 2 以上となっており、事業として十分効果があると言えます。